

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	95	48	41	4.9	13.4
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	97	56.6	47.6	41.3	44.8	47.6	6.8	4.3	16.2	5.4	7.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	57	61.6	48.1	48.7	48.4	46.5	9.5	4.5	9.1	5.8	7.4
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	47.0	54.6	8.4	4.6	8.2	5.7	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	45.9	54.0	9.3	5.2	9.5	6.6	7.9
1 年	学校	80	50.5	49.6	44.5	47.8	57.3	10.8	4.4	8.5	3.5	5.8
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	4.0	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	95	95.1	—	92.9	—	162.0	—	108.4	—
10月22日	大阪市	—	105.7	—	104.6	—	149.6	—	102.1	—

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			61								
2 年 男 子	学校	30.40	30.14	44.60	58.20	92.54	—	7.54	201.93	22.79	48.88
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	—	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	—	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	21.86	22.30	47.39	46.36	53.48	—	9.05	165.57	11.14	49.43
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	—	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	—	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度 全国学力学習状況調査より

〈国語〉

【成果と課題】

平均正答率は48%であり、大阪府の平均より9%、全国の平均より10.1%低い結果となった。観点別の平均正答率は、知識・技能が53.2%、思考・判断・表現が45%だった。問題形式ごとの平均正答率は、選択式が54.2%、短答式が53%、記述式が26%であり、特に記述式問題の平均正答率は、大阪府の平均正答率より16.2%、全国の平均正答率より19.5%低い結果であった。

記述式の問題の中で、2四(本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する)の無回答率は4.2%であったのに対し、1四(話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く)は14.7%、3四(表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する)は24.2%、と高く、「自分の考えを文章化すること」「表現を工夫して創作文を書くこと」に苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがえた。

【今後に向けて】

国語科においては、説明的文章や文学的文章の読解だけでなく、それらの文章の内容を受けての自分自身の考えを文章化する取り組みや、文章に含まれる表現の工夫に目を向けさせ自身の文章力の向上に繋がるよう指導していきたい。また、漢字や語彙に関する知識を問われる問題で確実に得点できるよう、過去の学習内容についても繰り返し復習の機会を設け知識の定着を図っていく。

〈数学〉

【成果と課題】

問1 について全国平均34.8に対して本校は12.6である。

本校の誤答の傾向として、nを使って解答するということは把握しているが、正しく記載できていないというものが多い、授業内でのぼんやりとした内容だけが定着し、なぜそのような形で表現できるかなどの理解が徹底できていない。

問3 について全国平均68.3に対して本校は57.9である。

回転移動した図形の各頂点がどこに移動するかを答えるだけの問題であるが、正答者が6割にも満たない。説明をすればすぐに理解できるが、改めて問われると正答できないものが多いように思う。問題演習の少なさが原因としてある。

問4 について全国平均65.3に対して本校は51.6である。

この問い合わせは言い換えれば「傾きを大きくするとグラフはどのように変化しますか」となる。こう聞かれれば正答できる生徒が本校では増えると思う。しかし、このような問われ方に対応できないのは文章理解する能力と数学的知識がつながっていないのだと考える。本テストの場合は選択肢問題であり、上記の問い合わせは記述式である。一般的に選択肢問題の方が回答しやすいように考えるが、生徒の数学学習に対する困り感は数学的知識がテストでの聞かれ方と乖離しているところにあるように思う。

問6-(2) について全国平均35.9に対して本校は14.7である。(部分点も含む)

本校の回答の傾向として、与えられた式をとりあえず計算するということがみられる。問い合わせに対する見通しを立てて計算を進めるなどの訓練が少ない。文章を読んでどのような式を得る必要があるか、どの式を得たいのかという感情を刺激できていない。

問7-(1) について全国平均74.3に対して本校は64.2である。

最頻値を求めよという問い合わせに対しては回答方法が明確であるため、回答を完成できる生徒が6割をこえている。しかし、全国平均に対し10ポイント下回る結果になっているのは演習不足が原因である。

問8-(1) について全国平均83.4に対して本校は80.0である。

この問い合わせが全体平均が10ポイント下がる本校の生徒のうち8割が正答できていることには教科書、ワークなどでこのように問われる場面多いことが要因だと考えられる。

問8-(2) について全国平均17.1に対して本校は12.6である。

この問い合わせの正答率の低さは、1行目から3行目までの文章が難解であること、また、ア、イの選択肢が「同じ説明をするための2つの方法」であるとの理解がしにくいことによるものだと考える。教科書ではイの考え方の便利さを強調して指導するため、細部でアの式から値を求めていくところまで習熟させられていない。

問8-(3) について全国平均76.9に対して本校は68.4である。

この問い合わせに関しても比較的に教科書で強調して指導している内容である。

問9-(1) について全国平均25.8に対して本校は11.6である。

合同の証明を書くだけの問い合わせである。この正答率の低さは授業内指導に課題があると考える。

問9-(2) について全国平均26.7に対して本校は14.7である。

この問い合わせは全問での合同に着目すること、正三角形の固定による外角の 120° が決定することに着目することが必要になる。これは、選択肢から消去法的に推測・計測していくことでも正答にたどり着ける。おそらくそのように考えた生徒が多いように思う。ここではその思考をたどれる思考力をはぐくめていたかどうかが本校の正答率の低さにつながっていると考える。

【今後に向けて】

本校の数学科においては、基礎学力の定着に重点を置き指導に当たっている。問2や問5への正答がかなり低いことからもわかるように、まずは数学的知識を定着させる必要のある生徒が40~60%いることが推測できる。この層の生徒に基礎を演習により定着させる時間をまずは確保すること。また、数学的知識が定着している40%ほどの生徒に対しては数学的言語活動の充実と、問われ方にかかわらず数学的知識を利用できるようになるための教材研究と授業実践を続ける。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度チャレンジテスト 3年生

〈国語〉

【成果と課題】

平均点は56.6点であり、大阪府の平均点65.2点と比較して86.8%という結果となった。得点集計値では、割合が最も高かったのが45~49点の11.7%で、平均点の周辺である55~59点は全体の6.4%であり、学力が上位層と下位層に分かれている。府平均と比較すると、知識・技能の観点では漢字の書き取りや漢文の読み方に関する問題や、思考・判断・表現の観点では文脈に合わせた表現の書き換えや条件に従った記述の問題で正答率が低かった。問題形式ごとの平均点は、選択式が35.7点(対府比89.0%)、短答式が14.4点(対府比82.8%)、記述式が6.5点(対府比84.3%)であった。文章中から必要な情報を抜き出したり、条件に合わせて記述したりすることが不得手な生徒が多いと考えられる。

【今後に向けて】

漢字の読み書きは国語科の試験では必ず出題される内容であるため、漢字の知識を増やすことが試験の成績の向上にもつながると考えられる。また、文章の記述力や読解力を向上させるためには言語に関する知識が必要不可欠だと考える。国語科では、授業や家庭学習の課題を通して漢字や伝統的な言語文化など国語に関する知識の定着を図り、入試において確実に得点できる学力を育成する。

〈社会〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、2.8ポイント下回った。昨年度は府平均を上回ったが、今回下回った要因として考えられることは、時間の経過による忘却を復習によって、抑えることができなかつたのではないかと思われる。圧倒的に、定着した知識の量の少なさがあり、特定の知識(今回であれば、フィヨルド、大宰府など)は覚えているが、一方で定着していない語句も多かった。その時印象に残ったり、再度出てきた語句に関しては定着がみられるので、定期的に繰り返しのドリルを行うべきかもしれない。思考力を問う問題では、総合的読解力を上げる必要があり、一つの教科だけでなく、どの教科も横断的に取り組むべき課題だと思う。

【今後に向けて】

定期的な振り返りの知識定着のためのドリルを行う。現在は、一つの授業後に単語を何回も書かせているが、そうではなく、1か月に1回の復習テスト、および定期(中間・期末)テストを再び1年後に実施するなど、学習量を強制的に上げる。社会科に関する興味・関心を持って自主的に調べたり、ノートに表現する生徒は多いが、それだけでは、テストの点数の向上につながらないことが普段の定期テストでもわかっているので(主体的発展的なノートを作成していくも、定期テストで高得点は取れていない)今回の大阪府のチャレンジテストのように知識の有無を問うようなものに関しては、繰り返し問題を解くなど知識の定着を図っていく。

〈数学〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、マイナス7.7ポイントであった。「数と式」では、基本的な四則演算は府の平均に近いポイントがある。一方で因数分解の問題となると、10ポイント近く府平均からマイナスとなる。同時進行的に比較的負荷の高い二つの計算を進めなくてはいけない場合や、計算して出した値同士を再度考察するなど、思考が複雑になっていくほど、基本的な問い合わせても正答率は下がるといえる。顕著な例が連立方程式である。二つの方程式のつながりを確認していくながら、二つの文字の値を求めていくという単元であるが、あまりにも正答率が低い。一方で、分母の無理数の有理化の問い合わせは府平均をこえている。分母の有理化は計算の難易度でいえば高い問い合わせであるが、扱う数は多くない。単元「図形」においては基本的な知識がかなり欠如している。「関数」に関しては比例の問い合わせが半数近く正答できていない。「データの活用」においても基本的な内容をおさえれば正答できるはずである。

【今後に向けて】

数学科では、より演習を軸とした授業改善をするべきである。特に演算分野に関してはトレーニングがあまりにも足りていない。問い合わせを解く中で原理を理解していくというのも数学という教科の特徴であるといわれているので新たな視点で教材研究に取り組んでいかなければいけない。また、カリキュラムを作成する際に、図形とデータの活用の分野においては、基本的な問い合わせの習熟を最優先させなければいけない。それ以上のことは、難易度を調整して個に応じた演習時間を設けるべきである。関数分野に関しては、教科書の手順で指導するよりも、関数のシステム(x の値が決まれば y の値が一つオートマティックに決まる)を指導したあと、式で表すことのみを演習の中で身につけさせる。次にその式から表を完成させることを身につけさせる。最後に表からグラフを作成することを身につけさせる。これにより関数における数の代入という計算の重要性を理解し、膨大な量の計算練習をすることになる。関数の原理と計算の関係を密接に感じ理解できるようになる。

〈理科〉

【成果と課題】

平均点は大阪府と比較して、-7.5点だった。4分野の中で「生命」の分野が低く、ヒトの肺のつくりとはたらきについてや遺伝の項目の正答率が特に低かった。植物の分類や動物の特徴について、正解できていない生徒もおり、1・2年生の復習や基本的な知識が、まだ足りていない。1学期の中間テストで出題した「地球」の分野は、正答率が他に比べて良かった。復習プリントを定期テスト前にさせていたので、問題を解けた生徒が多かったように思う。中間層が少ないので、一問一答形式での知識の定着や文章問題に挑戦する時間を作り、下位層を育てていきたい。

【今後に向けて】

これまでの復習を授業と並行しておこない、実力テストや入試対策に備える。3年生の範囲は定期テストで繰り返し出題し、知識を定着させる。また問題文の多いものは読み飛ばしたり、読まなかったりする傾向がある。普段からのテストで問題文を読む習慣をつけさせ、今後に臨みたい。

〈英語〉

【成果と課題】

府平均-6ポイント(昨年度3年-7.1ポイント)と、経年比較では平均点がやや改善した。「聞くこと」「読むこと」については、府平均-2ポイント以内に収まっており、比較的健闘していた。しかし「知識・技能」が府平均-3.8ポイント、「書くこと」が府平均-3.4ポイントと大きく開きがあった。

【今後に向けて】

英語科では、「知識・技能」、「書くこと」を改善するために、「聞くこと」「読むこと」の強みを生かしながら指導する。具体的には「読む」活動の中で知識を定着させる教材を作成し取り組ませる。また「聞くこと」を通して、それに対する返事や自分の意見を「書く」活動をさせる。複合的な要素を取り入れ、生徒の英語力向上に取り組む。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度GTEC結果より

【成果と課題】

ライティング(162ポイント)、スピーキング(108ポイント)、リーディング(95.1ポイント)で、本校の昨年度の結果を超えることができた(昨年度比 ライティング+3.3ポイント、スピーキング+1.4ポイント、リーディング+5.9ポイント)。しかし、リスニングが92ポイントで、昨年度から11.7ポイント下がった。

リーディングについては、帯活動等で取り組んでいたスキミングやスキヤニングの効果が出たのではないかと考える。

ライティング、スピーキングについては、9月下旬に行った3年生全員受験の英検実施に向けて、3級取得をめざして継続的に取り組んだ。そこで学びをGTECのライティングに活かせた成果が出たのではないかと考える。リスニングについては、英語を聞いて「意味のまとまり」ごとに区切り、状況をイメージする力が弱い。特にパートB、パートCが50%を下回っていた。音読練習の量、イラスト等を見て、英語を聞き取らせる活動などが不十分であったと考える。

【今後に向けて】

リスニングについては、上記の「課題となっている要因」を改善するため、音読練習の量、イラスト等を見て、英語を聞き取らせる活動などを行うなど、練習量を確保する。聞き取った内容を話し合わせるなどして、まとまった内容の英文を聞き取らせることができるようとする。リスニング問題をさせた後に、特に間違いの多かった問題を全体で共有し、ミスが多い理由を考察させる。リーディングについては、様々な英文を読ます機会を増やし、要約させるなどして、まとまった内容を読み取る力をつけさせる。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より

男子体力合計点については、全種目において全国平均(+7.02)・大阪市平均(+7.78)を上回った。女子体力合計点については、全種目において全国平均(+2.06)・大阪市平均(+1.92)を上回った。「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的回答は全国平均、大阪市平均と比較して上回っている。①「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか」については男子が82.2%、女子が60.9%が「大切」と回答、②「体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか」については男子が88.4%、女子が95.7%が「目標を立てている」と回答し、全国平均を①は男子14%、女子11.6%②は男子14.4%、女子28.1%と大幅に上回っている。この結果から生徒が自身の体力・運動への興味・関心が高いことがわかる。また、「保健体育の授業は楽しいですか」については男子が95.5%、女子が95.6%が肯定的な回答をしており、日頃の授業から主体的に取り組んでいることもわかった。このように、本校生徒は体力・運動に対して意識の高い生徒が非常に多いことが、今回の調査結果につながっていると考えられる。1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合については、全国平均を男子が254.9時間、女子が-20.5時間、大阪市平均を男子が222時間、女子が-25.7時間と男子は大幅に全国平均、大阪市平均を上回り、逆に女子は全国平均、大阪市平均ともに少し下回るかたちになった。男女とも、今後は生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成に取り組み、課題の改善に努めていきたい。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度チャレンジテスト1年生

〈国語〉

【成果と課題】

8ポイントのマイナスは、本校の2学年の教科全体の中で最も大きな差だった。すべての設問において府の平均点を下回っているため、成果といえる成果はない。だが、その中でも無回答率については府平均と比較してもほとんど開きがない。解答を諦めるのではなく、出来る限り解答に辿り着こうという意欲は他校と差はなく、次年度につなげられるものであるといえる。

府平均との比較の中で、特に大きく水をあけられていたのは「短答式」「記述式」の問い合わせで、ともに10%以上の開きがあった。次年度に向けては、ここが最大の課題であると分析する。

【今後に向けて】

正答率に注目すると、大阪府平均から10点以上離されている設問が31問中13問あり、その内訳は「知識・技能」が10問、「思考・判断・表現」が3問で、知識・技能の習得が十分でないという実態が明確に読み取れる。その中でも「言語の特徴や使い方」「言語文化」の誤答が多かった。言語文化に関する問い合わせは、直前の定期テストでも扱った問題であつたことを鑑みると、知識・技能の定着を図りたい。そのため、知識や技能を表現する機会をこれまで以上に確保しつつ、繰り返し学習の回数もさらに増やすていきたい。同時に現状の自身の指導方法に関しても見直し、改善していきたい。

〈社会〉

【成果と課題】

小問ごとの平均を比較してみると、本校の平均が大阪市平均を上回っている問題は、複数の資料を読み取って解答するものが多く、資料活用・判断の力がついてきていると考えられる。

また、無回答率は全体的に大阪市平均より低く、文章で記述して解答する問題は、無回答率が大幅に大阪市平均を下回っていたので、あきらめずに解答を導き出そうとする姿勢がみられる。

【今後に向けて】

- ・ICTを活用して多くの資料を活用し、資料をもとに考えさせる授業を続けていく。
- ・基礎的事項の定着のため、毎回の授業のはじめに復習テストをおこなっているが、それに加えて小テストもおこなっていく。
- ・毎回の授業で、発展的な問題を宿題としているが、文章記述で解答する問題を増やしていく。

〈数学〉

【成果と課題】

大阪府全体の平均と比較して-5.3ポイントであった。学習指導要領の領域別平均点を見ると「数と式」で大阪府と比較して-2.7ポイント、「関数」で-2.0ポイント「図形」で-0.6ポイントであった。

本校の生徒は各領域で大阪府平均より低い結果であったが図形の領域のみ大阪府平均との差が小さかった。この領域は2学期後半に学習したものである。このことから直近に学習した範囲の問題は正答率が高く、少し前に学習した範囲の問題では正答率が低い。

正答率が低かった問題は特に文字式、方程式、関数の範囲であった。この原因として文字式の表現の理解が不十分であると考える。1学期後半で学習する文字式の表現、性質が理解できていないため文字式の概念を用いる方程式、関数の学習が身についていないと考えられる。

得点分布のグラフをみると5点～19点の割合が11.3%(9人)、20点から39点の割合が32.6%(26人)であり、約半数が40点未満であることがわかる。

【今後に向けて】

- ・文字式の理解が不十分であるため、文字式の表現の仕方から復習を行う。
- ・20点未満の生徒が11.3%(9人)であるので、ここに分布する生徒には基本的な計算を徹底して指導し、基礎を定着させ、大問1, 2の正答率70%を達成できるようにする。
- ・20点以上40点未満の生徒32.6%(26人)に対しては授業内での演習量を増やし、基本的な問題を早く正確に正答できるようにする。
- ・第二学年での学習を円滑に進めるために第一学年で学習した内容の振り返りを今学期に行い、基礎問題の定着を図る。

〈理科〉

【成果と課題】

全体の平均と比較して、-7.8点であった。知識・技能は-4.1点だったが、思考・判断・表現では-10.3点と正答率が低かった。また分野では植物・動物の分類は比較的得点できていたが、身のまわりの物質とその性質の範囲の正答率が低かった。解答形式ではやはり記述が低く、定期試験でも記述の問題を増やすなど対策が必要である。

【今後に向けて】

理科室の空調の関係で演示実験や動画を見せた範囲の正答率が低かったので、来年度は授業の進路を考え、なるべく生徒実験をおこなう。また授業で自分の考えをまとめ時間やグラフや表から考えたことを文章化する時間もとつていただきたい。

〈英語〉

【成果と課題】

府全体の平均と比較して、4.2ポイント下回った。領域別にみると「聞くこと」-0.9、「読むこと」-2.1、「書くこと」-1.2となっている。「聞くこと」に関しては正答率100%の問題や、正答率が府平均より上回る問題もあった。

「書くこと」及び「短答式」「記述式」で答える問題で、正答率が府平均より特に低く、また無回答率が高くなっている。

【今後に向けて】

単語、文法問題、英作文問題で正確に「書くこと」を積み重ね、より丁寧に個別指導をしていく。「読むこと」と「書くこと」、また「聞くこと」と「書くこと」を統合した活動に取り組み、テストでの無回答をなくせるように指導していく。

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

令和6年度チャレンジテスト2年生

〈国語〉

【成果と課題】

大阪府の平均点まであと4点に迫ることができた。会話やインタビューをもとにした設問が主になっている。古典に関して時間をかけて学習したため、ほぼ大阪府の平均を上回ることができた。言語に関する知識事項の正解率が低かった。特に「インサツ」の正解率が21%しかなかった。漢字の正答率が低いのは、十分な練習量を積んでいなかつたからであると考えられる。

【今後に向けて】

教科書とは別にプリントを取り組ませているが、今後はその量や演習量を増やしていきたいと考える。

〈社会〉

【成果と課題】

本校の社会科の平均点は48.1点であり、大阪府の平均49.5点を1.4ポイント下回った。得点分布を見ると、25～29点、40～44点、45～49点の生徒が最も多い。中央値は府よりも3ポイント低かったが、標準偏差の数値から、得点のばらつきは府と同程度であると考えられる。知識定着度の分析では、地理分野(26.5%)・歴史分野(21.6%)の正答率が低く、とくに思考判断表現の正答率は府平均を下回る7.1%にとどまった。また、選択問題の正答率は府とほぼ同水準(34.6%)であったが、記述問題では2.8%と府の3.4%を下回つており、記述力の強化が求められる。

【今後に向けて】

知識の定着を図るために、単発的な復習ではなく、長期的な記憶を維持するための継続的な復習を導入する。具体的には、1か月ごとの復習テストや、1年前の定期テストの再実施を行い、学習量を確保する。また、思考力を問う問題への対策として、複数の教科を横断的に活用した読解力の向上を目指す。さらに、記述問題の強化のために、短文記述の演習を増やし、論理的な表現力を高める取り組みを推進する。

〈数学〉

【成果と課題】

平均点が大阪府と比べて-2.0ポイントであった。学習指導要領の領域別平均点をみると、「数と式」で大阪府と比べて0ポイント、「関数」で-0.8ポイント、「図形」で-1.1ポイントであった。得点分布グラフをみると、0点～19点の割合が14.2%であった。昨年度は直近で学習した範囲の問題は正答率が高く、少し前に学習した範囲の問題では正答率が低いという結果であったが、今年度はどの領域を見ても大きな差はなかった。その要因は直前の対策にあると考えられる。昨年度はチャレンジ対策のプリントを宿題などで解かせて授業で解説をしていたが、今年度は早い時期から授業中に復習問題を解かせて解説を行った。家庭学習をすることが難しい生徒が多いため、このように学校で復習させて4月からの内容の定着を図ったことが結果として表れたと考えられる。一方で19点以下の割合が昨年度と変わっていない。数学が苦手な生徒に基礎基本を定着させることができいかに難しいかを考えさせられる結果となっている。

【今後に向けて】

分析結果から学校でチャレンジテストの対策として復習問題を解かせることが大切だと思われるが、教科書も進めていくことを考えるとやはり家庭での学習も必要になってくる。家庭との連携や学校での学習環境を見直すことが大阪府平均を超えるカギとなるはずである

〈理科〉

【成果と課題】

今年度の結果としては、「大阪府平均45.9点・本校48.4点」という結果であり、大阪府の平均点から2.5点上回った結果となった。昨年度、1年次に受験したチャレンジテストplusの平均点では、大阪市より-11.1点であった。今年度の大坂府平均から+2.5点であったことをふまえると、学習への意欲が上昇傾向であると考えられる。今回の設問では、「生命領域」「粒子領域」で大阪府平均を上回る得点率であった。「生命領域」では、植物の蒸散や消化の範囲から出題された。消化の範囲は実験結果から考える内容であった。消化の実験は実際に授業では取り組むことができず、映像やプリントのみを使用した内容だったため、思考判断表現の観点の正答率は低かった。また、「粒子領域」では、酸化還元や水の電気分解の範囲から出題された。酸化還元の範囲は、授業で実験に取り組むことができず、生命領域と同様に、思考判断表現の観点の正答率が低かった。しかし、実際に実験に取り組み、レポートにまとめた水の電気分解では、大阪府の平均より正答率が高かった。これより、本校生徒にとって、実際に実験・観察し、考え・まとめることができた範囲は深く理解ができる生徒が多いと読み取れる。「エネルギー領域」は大阪府の平均とあまり差がなかった。その中でも、正答率が低かったのは思考判断表現の観点であった。

【今後に向けて】

全体として、記述式(思考判断表現の観点)の得点率が著しく低いことがいえる。これを改善するためには、「問題を読み解く力」と「考えを表現する力」を養っていく必要がある。授業の中でも、答えを導くことや文を読み解くことを苦手とする生徒も少なくない。暗記するのではなく、実験や観察を通して解答を導くための方法を指導していく。

〈英語〉

【成果と課題】

府平均-7.5ポイントであったが、昨年度の1年生(-8.7ポイント)を上回った。2年生は、学期に数回単語テストを行い、語彙力の定着に力を入れた。また毎回の授業でペアワークを行いながら、単語や短い英文を聞いたり読んだりし、また昨年に引き続き、初見の英文を決まった時間で読んで問題を解くことも繰り返し行った。(“読むこと”と“聞くこと”)その成果もあってか、4技能(聞く、読む、話す、書く)のうち、“読むこと”と“聞くこと”は府平均に近い成績を出すことができた。(聞くこと-1.6ポイント、読むこと-2.4ポイント) しかしながら“書くこと”は、府平均-3.5ポイントとなり、課題が残った。

【今後に向けて】

“読むこと”、“聞くこと”については、継続して音読指導とリスニングの練習などに力を入れる。また、“読むこと”については、もう少し多くの初見の英文に触れさせ、短時間で読めるように繰り返し練習する。また来年度も語彙力を高めるために単語テストを行い、定着させる必要がある。“書くこと”についても、今後は学習した語句の復習を帶活動で行う、多くの語句を使って英語を書かせるなどして改善を図る。

また、“読むこと”と“書くこと”や、“聞くこと”と“書くこと”などを統合的かつ複合的に行う活動を積極的に行い、生徒の書く力を向上させる。次年度は、府平均を超えることをめざす。

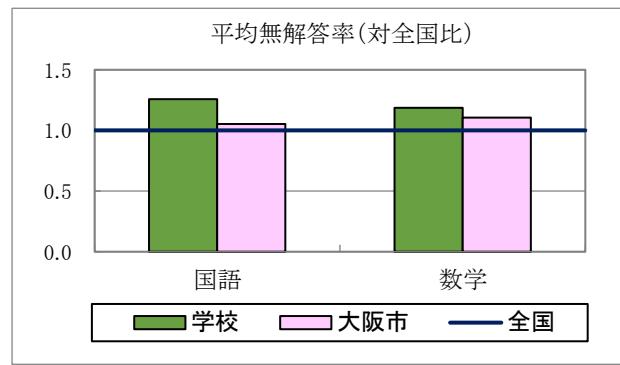
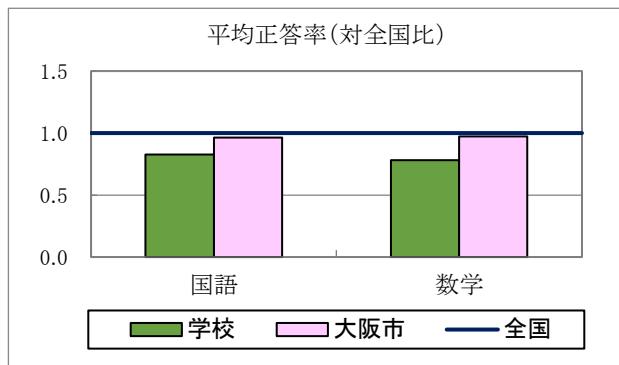
令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	48	41
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

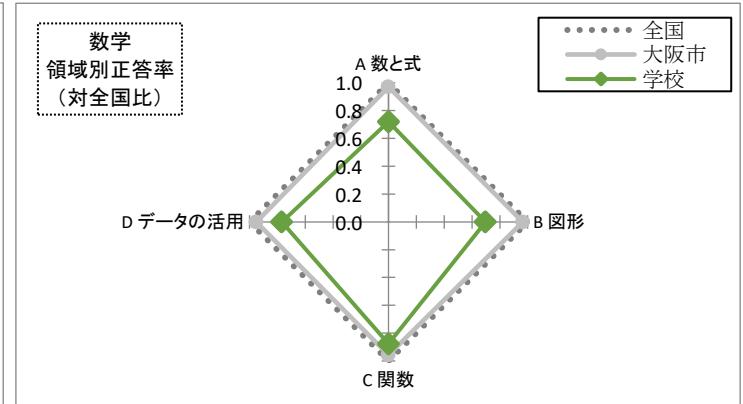
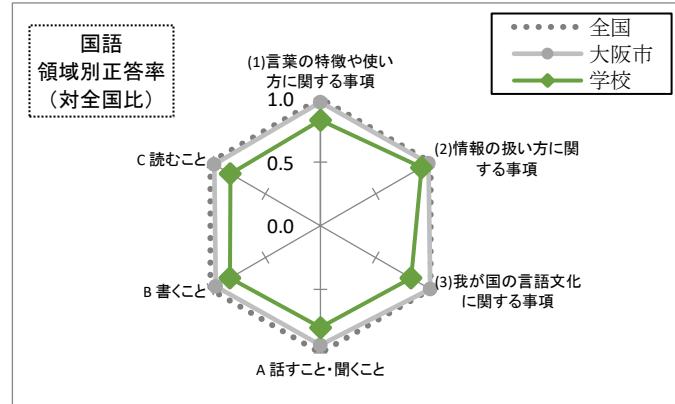
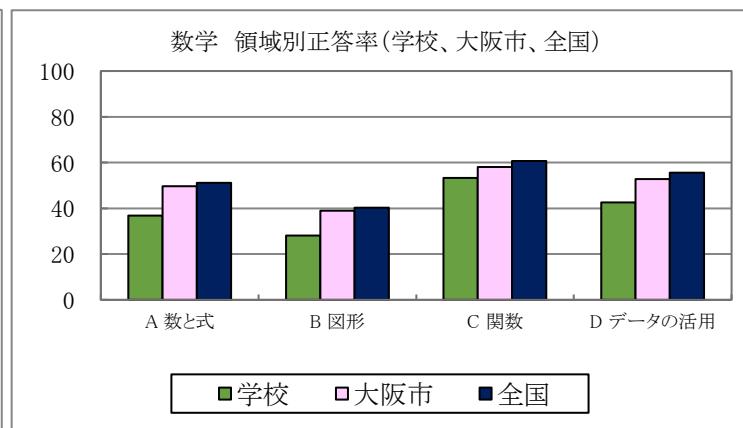
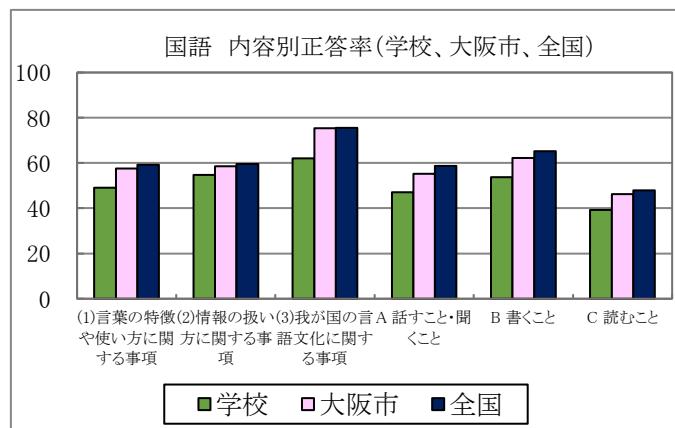
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.9	13.4
4.1	12.5
3.9	11.3



【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	3	49.1	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	54.7	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	62.1	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	47.0	55.2	58.8
B 書くこと	2	53.7	62.2	65.3
C 読むこと	4	39.2	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	36.8	49.6	51.1
B 図形	3	28.1	38.9	40.3
C 関数	4	53.2	58.1	60.7
D データの活用	4	42.6	52.8	55.5



令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

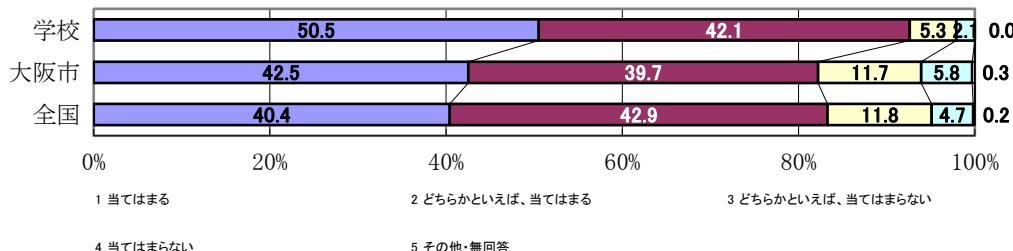
生徒質問より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

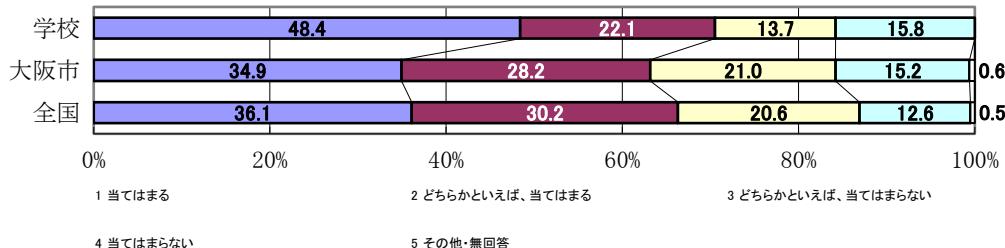
9

自分には、よいところがあると思いますか



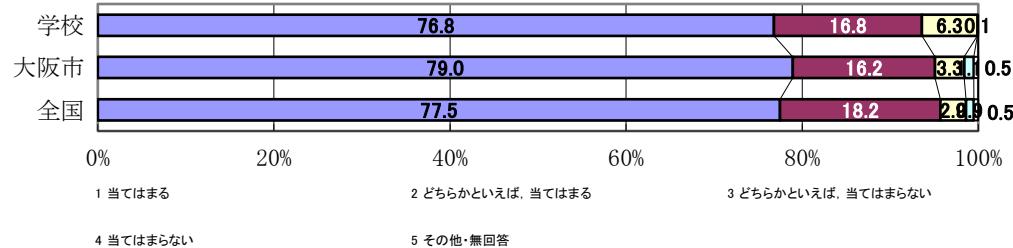
11

将来の夢や目標を持っていますか



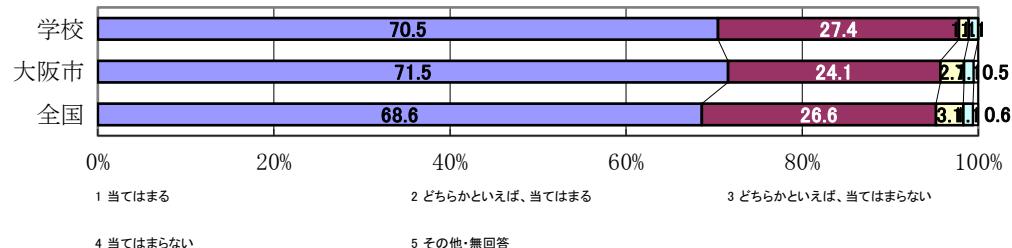
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



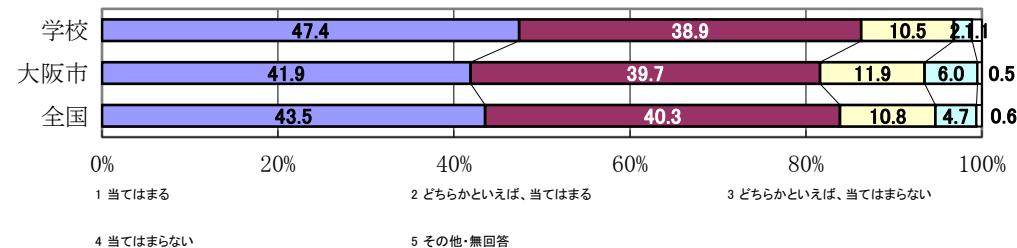
15

人の役に立つ人になりたいと思いますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



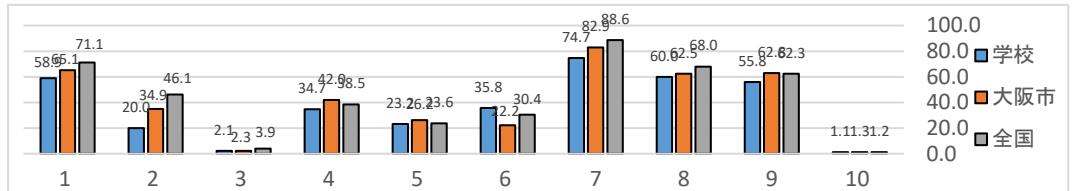
令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より (26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



1. 学校の部活動に参加している

2. 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学習協働本部や地域住民による学習・体験プログラムを含む)

4. 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている

6. スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている

7. 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8. 家族と過ごしている

9. 友達と遊んでいる

10. 1~9に当てはまるものがない

令和6年度 東生野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

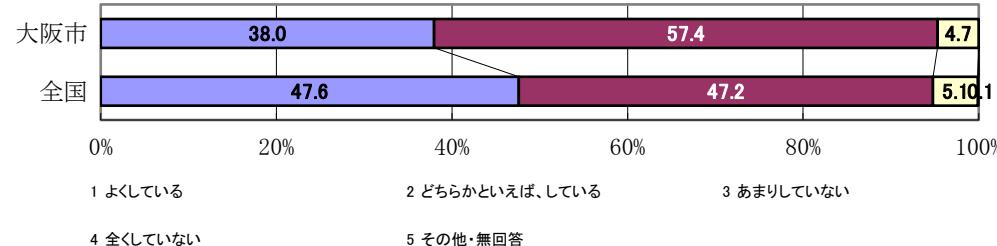
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

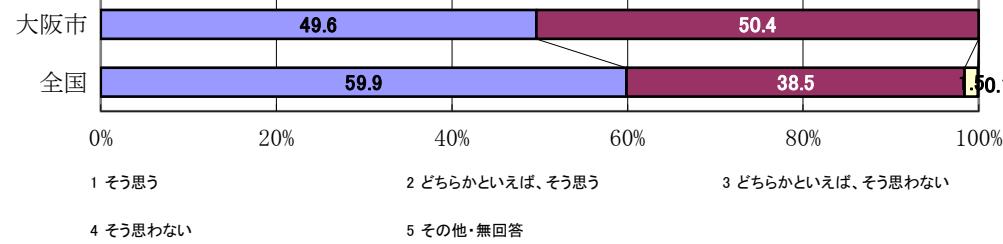
学校 「よくしている」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

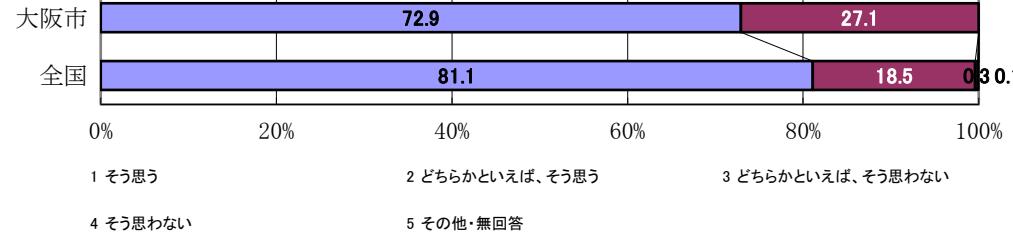
学校 「そう思う」を選択



21

各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

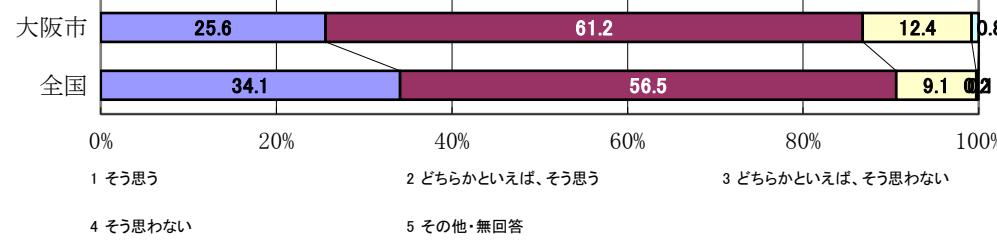
学校 「そう思う」を選択



22

今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしていく教職員が多いと思いますか

学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校 「そう思う」を選択

